

新生児科

診療科の概要

総合周産期母子医療センターおよび大阪新生児診療相互援助システム(NMCS)の基幹病院として、超低出生体重児や重症の新生児疾患などを対象に、院外からも患者さんを受け入れ、24時間集中治療を行っています。超低出生体重児については、脳室内出血、慢性肺疾患、未熟児網膜症などの発症予防に努めるとともに、他の診療科と連携し、先天異常などを有する新生児の集学的治療から在宅移行まで、総合的にマネジメントしています。また、出生前の診療相談(プレネイタルカウンセリング)や、心理士・ケースワーカー・保健師などと連携した支援にも力を入れています。発育・発達の長期フォローアップも丁寧に行い、特に超低出生体重児では学齢期に心理・体力・呼吸機能・聴力などの評価も行っています。さらに、研究にも積極的に取り組み、国内外へ情報発信しています。

主な対象疾患

- ◎超低出生体重児などの早産・低出生体重児
- ◎多胎児(双子、三つ子)
- ◎呼吸器疾患・循環器疾患:気胸、胎便吸引症候群、肺出血、先天性心疾患など
- ◎中枢神経疾患:新生児けいれん、低酸素性虚血性脳症、水頭症など
- ◎先天異常:染色体異常、奇形症候群、胎児水腫、ポッター症候群、代謝異常症など
- ◎外科系疾患
- ◎その他:重症感染症、重症黄疸、血液・凝固異常、合併症を有するお母さんから生まれる新生児など



主な設備

新生児搬送用救急車、超音波診断装置、各種人工呼吸器(神経調節補助換気(NAVA)を含む)、一酸化窒素吸入用装置、低体温療法装置、aEEG脳機能モニター、広画角デジタル眼底カメラ(Ret Cam®)など



診療実績(2024年)

NICUへの入院患者数は536名で、出生体重別に1,000g未満25名、1,000~1,500g未満27名、1,500g以上484名。新生児緊急搬送は146件で、三角搬送(産科病院から他のNMCS施設へ)は109件でした。



診療科からのお知らせ

入院された患者さんは、状態が落ち着けば早期に地域の周産期センターなどに転院いただくことへのご協力をお願いいたします。また、退院後の予防接種や一般診療は、地域の医療機関における対応をお願いしています。



副院長
和田 和子



主任部長
望月 成隆



副部長
野崎 昌俊



副部長
平田 克弥



副部長
吉田 美寿々



診療主任
木本 裕香



診療主任
福田 沙矢香



診療主任
島 孝典



診療主任
高久保 圭二